

営業店マルチスキャナー導入による業務BPRを推進。 経営効率性の向上を目指す筑波銀行の取り組み。

営業店マルチスキャナーの有効活用を実現

筑波銀行(本店:茨城県土浦市)では、今年度よりスタートした、第二次中期経営計画「Rising Innovation 2016」の経営課題である、営業資源の効率的再配分を実現するための手段として、営業店全店と本部・集中センター等にグローリー(本社:兵庫県姫路市)製のパソコン内蔵型マルチスキャナー「FU-500」を導入し、営業店事務の更なる本部集中・事務効率化に成果を上げている。

導入の背景

2010年3月1日に関東つくば銀行と茨城銀行が合併し、筑波銀行としての新たな歴史がスタートした。

第一次中期経営計画「MAKE HISTORY 2013」を着実に履行し、合併の相乗効果を最大限に引き出すために、新銀行としての体制整備を行う中、営業店の後方業務の改革についてもスピード感を持って推進した。

後方業務改革の三本柱として ①融資 ②投資信託 ③為替に着目。現物送付による授受リスク、FAX誤送信リスク、そして受信したFAXの視認性が課題となっていた。

そこで、営業店にスキャナーを設置し、現物での送付に代わりイメージ送信することにより、これら課題の改善に取り組むことにした。

複数のベンダーの提案の中から「ADF機能を搭載し、A3まで対応」「フラットベッド機能」「通番印字機能」が



筑波銀行
システム統括部
システム企画グループ
主任調査役
西井 和浩氏



筑波銀行
事務統括部
事務管理グループ
生天目 孝氏

替業務での他行導入実績」を全て兼ね備えた、グローリー製(マルチスキャナー)FU-500を採用した。

改革の三本柱について、それぞれ個別に改善するのではなく、オールインワンで包括的な改善をすることが可能となった。

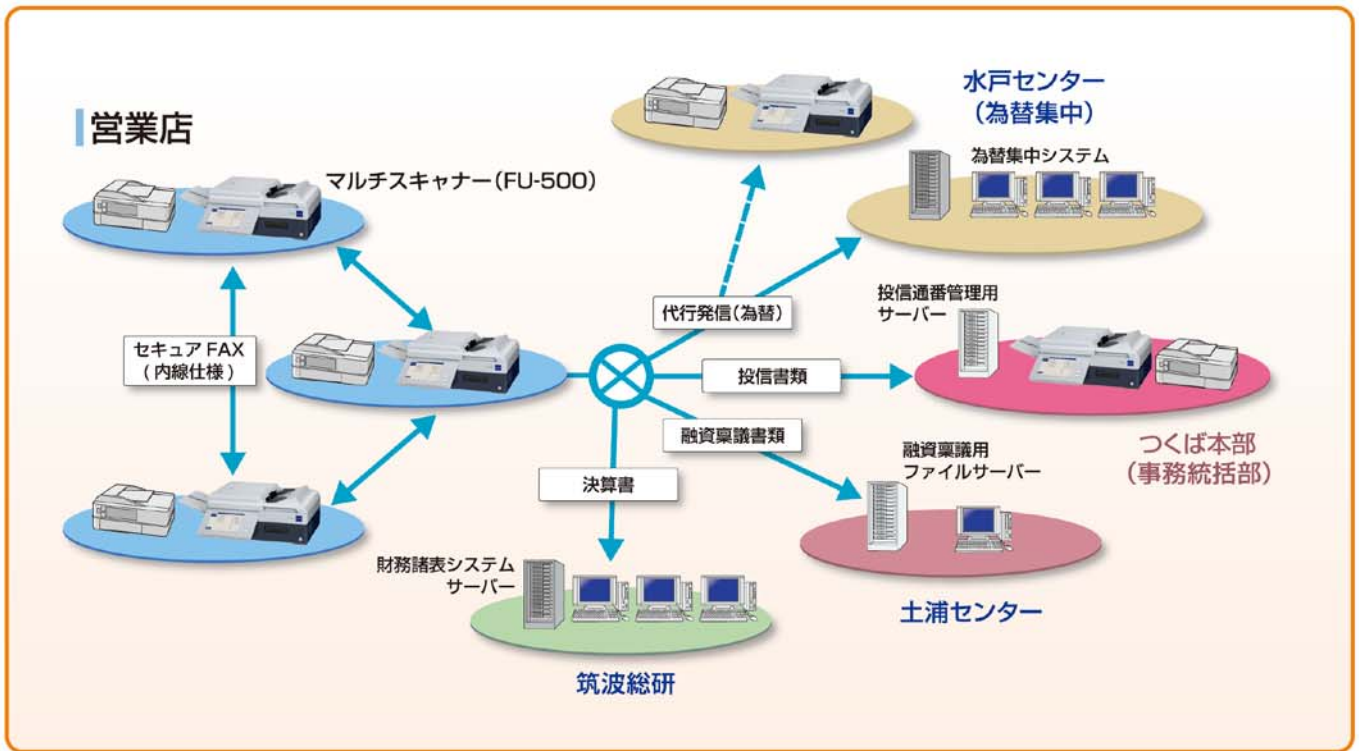
営業店マルチスキャナーで負担を削減

2011年3月、まずはSTEP1として全営業店と本部の一部に(マルチスキャナー)FU-500を配備。「内線用セキュアFAX」と「ネットワークスキャン」の2つのアプリケーションの使用を開始した。

営業店マルチスキャナー FU-500 採用のポイント

- ・ADF機能を搭載し、A3まで対応
- ・フラットベッド搭載
- ・通番印字機能搭載
- ・為替業務での他行実績





「内線用セキュアFAX」は、FU-500で送信する書類をスキャンし、行内ネットワークを使って送信する。電話回線を使用する従来のFAXでは、話し中など受信側の状況により送信したFAXが未送信となる問題があった。内線用セキュアFAXでは、送信されたFAXは受信側のFU-500に蓄積されるため未送信の問題も解消した。また、送信される書類はFU-500で高精度でスキャンされたデータのため、受信側の視認性も大幅に向上した。

「ネットワークスキャン」では、融資稟議添付資料を送付する際に行なっていたコピーや回付、発送準備などの作業を軽減するだけでなく、決算書のイメージを取り込み、財務分析システムと連携することで業務の効率化を実現した。また、様々な書類をPDFに変換し、行内LANでメール貼付などに利用できるように汎用的な機能も利用している。

翌年STEP2として「投信申込書送信」アプリケーションを追加。投信業務の帳票授受の事務効率化と視認性向上を実現する。投資信託では、通番付きイメージ送付とすることで、FAX送信と電話連絡による授受確認作業を削減した。

そしてSTEP3として今年、為替OCRシステムを導入。センター採番方式の通番付き為替イメージ送信による為替集中化を行った。また、センター機器に障害が発生した場合でも、為替集中部署専用の内線用セキュアFAXで対応できるようにすることで対障害性の向上も行った。為替OCRシステムでは、営業店側スキャンデバイスとして、このマルチスキャナーFU-500に送信側アプリケーションを追加、当初の改革三本柱の改善が実現。営業店の更なる活カアップのための環境が整った。

今後の展開について

更なる経営効率性の向上を目指して、イメージ処理を活用した更なる業務BPRの推進を続けていく。営業店に残る帳票現物の電子化及びWeb検索システム等での対応により、業務の効率化のサポートが可能となる。

営業店マルチスキャナー「FU-500」の活用範囲はまだまだ広がり、第二次中期経営計画の実現に向け、心強いツールであると言えそうだ。